

令和5年度第1回自立支援協議会権利擁護部会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年8月17日(木) 午後2時～午後4時
2. 開催場所 市役所4階 会議室S5・6
3. 出席者 (委員)*団体名のみ記載
(福) パーソナル・アシスタンスとも、(福) 敬心福祉会、浦安手をつなぐ親の会
浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市聴覚障害者協会、いちょうの会
千葉発達障害児・者親の会コスモ、(福) 千楽、(特非) あいらんど
浦安市社会福祉協議会、千葉県弁護士会京葉支部、中核地域生活支援センターくらっち
民生委員児童委員協議会、千葉県市川健康福祉センター、中央地域包括支援センター
社会福祉課、健康増進課
(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 令和5年度の自立支援協議会について
 - (2) 令和4年度第3回権利擁護部会の振り返りについて
 - (3) 浦安市における「8050問題」調査結果について
 - (4) 障害者差別解消法の改正について
3. 閉会

5. 配布資料

- 議題1資料1 令和5年度浦安市自立支援協議会について
- 議題1資料2 令和5年度自立支援協議会スケジュール
- 議題1資料3-1 浦安市の課題と解決に向けて
- 議題1資料3-2 浦安市の課題と解決に向けて
- 議題1資料4 自立支援協議会の新旧対照表について
- 議題2資料 令和4年度第3回浦安市自立支援協議会権利擁護部会 報告
- 議題3資料 浦安市における「8050問題」実態把握 調査について
- 議題4資料 合理的配慮の提供が義務化されます

6. 議事概要

- (1) 令和5年度の自立支援協議会について

■説明(事務局)

事務局より令和5年度自立支援協議会及び浦安市障がい者福祉計画策定の概要、浦安市の課題と解決に向けた各部会の協議内容等について説明した。

■主な意見

特になし

(2) 令和4年度第3回権利擁護部会の振り返りについて

■説明（リーダー）

令和4年度第3回権利擁護部会について振り返りを行った。

また、加えて令和3・4年度の協議内容についても簡潔に振り返りを行った。

■主な意見

委：8050問題調査の調査対象についてはどのように決めたのか。

→事：行政の関係部署や市内各相談支援事業所、民生委員等で把握している世帯を調査対象とした。

(3) 浦安市における「8050問題」調査結果について

■説明（事務局）

事務局より前年度実施した8050問題実態調査の内容及び次回の部会ではこの結果を受けてグループワークを行う旨について説明を行った。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：民生委員は敬老祝い品等で課題を抱えた家庭を把握することがあるが、個人情報の兼ね合いから介入が難しいケースが多い。

委：8050問題について課題のある家庭を見つけた時、どのように介入ができるのか判断が難しい。

委：8050問題の家庭への介入については、個人情報の他にもプライバシーの問題もあって判断が難しいため、法的な側面からも整理が必要である。

委：8050問題では差し迫って支援の必要な世帯もあるが、ひきこもりではない家庭でも、親亡き後どうするかといった問題は重要な課題である。

(4) 障害者差別解消法の改正について

リーダーより、障害者差別解消法の内容及び来年度の改正内容について説明を行い、各委員より意見を求めた。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：合理的配慮は個々の事例ごとに要点が違い、画一的な対応は難しいため、ケースごとに建設的な対話が必要となる。

委：聴覚障がい者が外食した際には、筆談でのコミュニケーションを必要とする場面が多い。

対応できる店は増えているが、より広まっていくことを望む。

委：行政の施設についても合理的配慮が行き届いているか疑問がある。

委：発達障がい等の障がいを抱えている方だと、一見では障がいを抱えていることが分かり

にくく、奇異の目で見られることがある。障がいに対する知識・理解について啓発が進んでほしい。

委：外見からわからなくても、障がいに対する配慮がしてもらえるよう検討をお願いしたい。

委：東野パティオを使いやすい施設にしてもらいたい。

委：市からのお知らせについて、障がいに対する配慮をお願いしたい。

委：学校で障がいのある子が、他の学生と別のクラスに分けられることで、障がいのある人と知り合える機会が減っているのではないか。子どものうちに障がいのある方と関わる機会を持つのは大事である。

委：合理的配慮において求められるのは、相手が何を必要としているか、知識がなくても感覚的にわかるようなサインが必要ではないか。

委：障がい者における災害時の避難体制について確認したい。

→事：要支援者ごとに個別避難計画の作成を進めている。

委：高齢者における認知症のケースでも、一般の方の理解不足が度々問題につながるため、周知啓発が重要である。

委：合理的配慮を求められる場面において、提供者は必要以上に身構えてしまったり、対応に悩んでしまうことが多い。行政側で合理的配慮を行った事例集などを示せば事業者などのハードルも下がるのではないか。

委：合理的配慮の不提供になる場面の多くはコミュニケーション不足から生じている。